

事後評価結果

北陸農政局

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考
										事業実施主体	農政局	
新潟県	柏崎市	柏崎市全域	柏崎市	1. バイオマス利活用の推進 (1) バイオマスタウン構想の策定支援 ・普及啓発活動 広報誌作成・配布(2回) 33,500部(全世帯) 500部(関係団体) ・合併後における本市のバイオマス賦存量・利用状況調査 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 4回	H18	バイオマスタウン構想のステップアップ年度		・普及啓発活動 これまでのバイオマスにかかる取り組みや賦存量等を踏まえた今後の取組等を踏まえ、今後の取組を広報誌等により市内全戸及び主要企業等500団体に紹介し、タウン構想策定への理解を深めるとともに「地球温暖化の防止」・「循環型社会の形成」の必要性を認識させる。 ・合併後における本市のバイオマス賦存量状況調査 賦存量及び利用状況を踏まえ、新たに取組を検討することにより、廃棄物系90%以上、未利用系60%を目標に設定する。 ・バイオマス利活用推進協議会の開催 4回 菜の花プロジェクト、BDF、堆肥生産、下水汚泥処理等の既存の取組を踏まえつつ、バイオマス関係者からなる協議会を開催することにより、地域が一体となった取組を可能とするタウン構想を策定する。	本事業においては、バイオマス利活用推進協議会でバイオマスの賦存量等を踏まえた利活用方法や目標及び取組工程等の検討を行いつつ、市民等へのバイオマス利活用の意義や参加の重要性等の普及啓発活動を行い、各個別成果指標を達成するとともに、これら取組の結果、地域が一体的となった取組を可能とするバイオマスタウン構想を平成18年12月25日に北陸農政局長に提出していることから、事業の目標を達成している。 今後は、7月16日に発生した新潟県中越沖地震による復旧作業を最優先として取り組みつつ、「柏崎市バイオマスタウン構想」の各プロジェクトの推進については復旧作業が終了した後にスケジュールの見直しをはかり、柏崎市、バイオマス利活用推進協議会、森林組合、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、タウン構想に掲げた各プロジェクトの取組を推進していく。	バイオマス利活用推進協議会の開催、合併後の柏崎市におけるバイオマス賦存量状況調査及び広報誌配布等の普及啓発活動等の事業メニューが滞りなく実施され、全ての個別成果指標が達成された結果、廃棄物系バイオマスの90%以上の利活用を目標としたバイオマスタウン構想が策定され、目標は達成された。 また、今後は新潟県中越沖地震による復旧作業を最優先に取り組み、作業終了後にスケジュールの見直しを図ることとしており、被害を受けた農業用施設等の復旧作業等が終了し次第、同構想に基づき廃棄物系バイオマスにおいては、生ゴミ及び集落排水汚泥等のたい肥・メタン化等、未利用系においては、現在、利用の進んでいない間伐材の杭加工等を中心とした利活用率向上に向けた取組の実施により、柏崎市におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。		

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考	
										事業実施主体			農政局
新潟県	佐渡市	佐渡市全域	佐渡市	<p>1. バイオマス利活用の推進 (1) バイオマスタウン構想の策定支援 ・バイオマスタウン構想策定会議の開催 4回</p> <p>・木質系バイオマス利活用シンポジウムの開催 1回</p> <p>・木質システム検討会議の開催 2回</p> <p>・木質系未利用資源の調査研究</p> <p>・利用機器の導入</p> <p>・ペレットの購入</p>	H18	バイオマスタウン構想のステップアップ年度		・地域内の廃棄物系バイオマスの90%以上かつ未利用バイオマスの40%以上の活用を目標としたバイオマスタウン構想を策定する。	<p>本事業の計画的な実施により、設定した「バイオマスタウン構想策定会議の開催」、「バイオマス利活用システム検討会議の開催」、「BDF普及のためのモニタリング」、「ペレットストーブの試験的導入、及び「バイオマス利活用シンポジウムの開催」等に関連する個別成果指標を全て達成しており、目標である「バイオマスタウン構想の策定」についても、これらの取組結果が反映されたタウン構想を平成19年3月29日付けて公表しており目標は達成された。</p> <p>今後は、タウン構想に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率90%、未利用系バイオマスの利活用率40%」を達成できるよう、新潟県、1次産業関係者（森林組合等）、廃棄物処理業者、市民団体、地元農家等の関係機関との緊密な連携を図った上で、地域のバイオマス資源の利活用拡大の取組（一般家庭からの廃食油の回収、ペレット製造機の導入、ペレットストーブのリース、チップボイラーの導入）を推進していくことにより、タウン構想の目標の達成は確実である。</p>	<p>木質系未利用資源の調査研究及びBDF利活用システム構築に向けた実証等の事業メニューが滞りなく実施され、全ての個別成果指標が達成された結果、これら主要バイオマスの目標利活用率を設定したバイオマスタウン構想が策定され、目標は達成された。</p> <p>また、今後は同構想に基づき、間伐材・林地残材のチップ化・ペレット化等木質バイオマスを中心とした利活用率の向上に向け、佐渡市におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。</p>			
								・参加者約100名規模のシンポジウムを開催し、木質バイオマスの利活用に関する理解を醸成し、バイオマスタウン構想策定に活用する。					
								・地域内の有識者等で詳細な検討、調査研究ペレットストーブの導入によるモニタリング稼働実験等を行うことにより、木質バイオマスをバイオマスタウン構想の中に位置づけをする。					
								・地域内の有識者等で詳細な検討を行うことによりBDFをバイオマスタウン構想の中に位置づけをする。					
								・BDFの廃油収集、生産、供給までの利活用システムの実験とモニタリングを行い、BDFをバイオマスタウン構想の中に位置づけをする。					
富山県	富山市	富山市全域	富山市	<p>1. バイオマス利活用の推進 (1) バイオマスタウン構想の策定支援 ・バイオマスタウン推進協議会の開催 (3回)</p> <p>・バイオマス利活用状況調査の実施 (対象地域：市全域)</p> <p>・啓発活動の推進 (ホームページの掲載、広報誌掲載16万部)</p>	H18	バイオマスタウン構想のステップアップ年度		・バイオマスタウン推進検討体制の構築。	<p>本事業においては、設定した「バイオマスタウン推進協議会の開催」、「バイオマス利活用状況調査の実施、及び「啓発活動の推進」の取組を計画的に実施し、これらに関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスタウン構想の策定」についても、平成19年3月28日付けて策定しており目標は達成された。</p> <p>今後は、バイオマスタウン構想に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率91%、未利用系バイオマスの利活用率41%」を達成できるよう、NPO法人、森林組合、林業家、JA、農家、エコタウン産業界内バイオマス関連企業等のバイオマス関係事業所及び県等の関係部局との緊密な連携を図った上で、市の環境部、上下水道局、農林水産部からなる推進体制により、生ごみ（一般廃棄物）によるバイオマス発電、廃食用油・なたねによるバイオディーゼル燃料の製造及び製材工場廃木材、稲わら・もみ殻、林地残材・未利用間伐材によるバイオマス発電やペレット、バイオ燃料の製造等の取組を推進していくことにより、バイオマスタウン構想の目標を達成する。</p>	<p>バイオマスタウン構想策定事業庁内連絡会議の開催、バイオマス利用状況調査及び普及啓発活動等の事業メニューが滞りなく実施され、全ての個別成果指標が達成された結果、廃棄物系バイオマスの91%以上かつ未利用バイオマスの41%以上の利活用を目標としたバイオマスタウン構想が策定され、目標は達成された。</p> <p>また、今後は同構想に基づき、生ごみのバイオマス発電化、廃食用油等によるBDF製造及び製材工場廃木材、未利用間伐材等によるバイオマス発電、ペレット化、バイオ燃料化等の取組等を計画しており、これらを中心とした利活用率の向上に向けて計画の着実な実施を図ることにより、富山市におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。</p>			
								・廃棄物系バイオマス90%以上かつ未利用バイオマス40%以上の利活用及び新技術の導入の推進を目標としたバイオマスタウン構想が策定される。					
								・ホームページや市広報等に構想を掲載し、パブリックコメントを求め、広く市民の意見に配慮する。					

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考	
										事業実施主体			農政局
富山県	立山町	立山町全域	立山町	1. バイオマス利活用の推進 (1) バイオマスタウン構想の策定支援 ・バイオマスタウン構想策定検討委員会の開催 検討委員会 有識者、町、区長会、商工会、JA、森林組合等 (生ごみ堆肥化検討) (木質システム検討) 4回 ・バイオマス資源の賦存量等の調査(41施設)	H18	バイオマスタウン構想のステップアップ年度		・生ごみ堆肥・木質ペレット燃料について検討を行い、バイオマスタウン構想の中に位置づける。 ・地域内の廃棄物系バイオマス90%以上または未利用バイオマス40%以上の活用を目標としたバイオマスタウン構想を策定する。		本事業では、「バイオマスタウン構想の策定」に向け、「バイオマスタウン構想策定検討委員会の開催」、「バイオマス賦存量・利用状況調査の実施」の取組を実施した。また、これらに対する各個別指標も全て達成され、目標である「バイオマスタウン構想の策定」についても、これらの取組結果を反映したタウン構想を平成19年3月29日付けで公表しており、目標は達成された。 今後は、バイオマスタウン構想に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率90%以上及び未利用系バイオマスの利活用率の向上」を達成できるよう、独立行政法人「立山青少年自然の家」、グリーンパーク吉峰、立山山麓森林組合、食料品製造会社、町の関係各課等の関係機関との緊密な連携を図った上で、生ごみ処理機やペレットスト・ブ・ペレットボイラを導入を図ることにより、タウン構想の達成は確実である。	バイオマスタウン構想策定検討委員会の開催、バイオマス賦存量・利用状況調査の実施等の事業メニューが滞りなく実施され、全ての個別成果指標が達成された結果、廃棄物系バイオマスの90%以上を目標としたバイオマスタウン構想が策定され、目標は達成された。 また、今後は同構想に基づき、廃棄物系バイオマスについては事業系生ごみのたい肥化等、未利用系については林地残材等のペレット化に向け、それぞれ生ごみ処理機の導入、ペレットスト・ブ・ペレットボイラ - の導入等を計画しており、計画の着実な実施を図ることにより、立山町におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。		
石川県	加賀市	加賀市全域	加賀市	1. バイオマス利活用の推進 (1) バイオマスタウン構想の策定支援 ・協議会の開催 2回 (農業協同組合、造園業組合、商工会議所、再生事業者、社会副協議会、市民団体) ・発生量調査 1式	H18	バイオマスタウン構想のステップアップ年度		・バイオマス利活用推進体制の整備 ・食品系廃棄物の収集運搬体制の整備		本事業の計画的な実施により、設定した「バイオマス利活用推進体制の整備」及び「食品系廃棄物の収集運搬体制の整備」の個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマスタウン構想の策定」についても、平成19年3月29日付けで、公表しており目標は達成された。 今後は、バイオマスタウン構想に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率90%」を目標年である2011年までに達成できるよう、石川県、加賀商工会議所、加賀農業協同組合等の関係機関との緊密な連携を図った上で、生ごみ・剪定枝・初殻等の利活用や廃食用油の利活用等の取組を推進していくことにより、タウン構想の目標の達成は確実である。	バイオマスタウン推進協議会の開催及びバイオマス賦存量・利用状況調査等の事業メニューが滞りなく実施され、全ての個別成果指標が達成された結果、廃棄物系バイオマスの90%以上を目標としたバイオマスタウン構想が策定され、目標は達成された。 今後は同構想に基づき、生ごみ・剪定枝・初殻等の利活用や廃食用油の利活用等の取組を計画しており、これらを中心とした利活用率の向上に向けて計画の着実な実施を図ることにより、加賀市におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。		

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価		備考
										事業実施主体	農政局	
福井県	若狭町	若狭町全域	若狭町	<p>1.バイオマスの利活用の推進 (2)バイオマスタウン構想実現のための総合的な利活用システムの構築支援</p> <p>・森林体験活動、環境教育専門家による山林(環境)保全、資源循環、人づくりに関するフォーラムの開催</p> <p>・環境保全啓発、木質バイオマス利活用解説パンフ等作成 6,000部</p> <p>・山林体験イベントとして、環境保全、資源循環の啓発をする</p> <p>・炭焼き窯を作成し、バイオマス利活用の実践を体感し、啓発の一助とする</p> <p>・バイオマスタウン構想の具現化に向けて関係各機関と協議しながら、実施計画を策定</p> <p>・ペレットストーブを購入し、公共施設に設置 2台</p>	H18	バイオマスタウン構想書の実現・実践状況	<p>・フォーラム参加約200名等が環境再生、資源循環に向けた、各種対策の連携の必要性を認知。</p> <p>・環境・バイオマス利活用のパンフレットを通じて、町民(5,000)、企業(1,000)の理解を促進し啓発を図る。</p> <p>・タウン構想の具現化として、利用率の目標に向けて、バイオマスの種類に応じた利活用方針を策定する。</p> <p>・バイオマスタウン構想における推進体制の整備。</p> <p>・木質系バイオマスの利活用(除間伐の推進、炭化実証体験等)を若狭森林組合等が参加協力しながら啓発・推進、炭化実証体験(炭焼き)では、親子等広く参加を公募しながら行うものとする。</p> <p>・木質バイオマス燃料での実証により(小学校等に設置)、設置費用、維持管理費用燃料代等コストを検証し、普及啓発を図る。学童200人が環境教育の一環として認識。</p>	<p>本事業の計画的な実施により、設定した「森林環境フォーラムの開催」、「普及啓発パンフの作成」、「若狭町バイオマスエネルギー導入実施計画書の策定」及び「町内小学校へのペレットストーブの導入」等に関連する個別成果指標を全て達成しており、目標である「バイオマス構想書の取組工程表のうち事業実施期間中の工程部分の履行」についても、バイオマスライン(山、川、湖、海)での事業展開(起承転運)の中で、導入部分(起)(森林づくり)の実現に向けた上記取組が確実に実施され、未利用系バイオマス利活用率の向上等に必要な地域住民等の理解醸成等は確実に進み、目標は達成された。</p> <p>今後は、「若狭町バイオマスタウン構想」に明記された利用率(廃棄物系90%、未利用系40%)の到達に向け、若狭町・農業協同組合・漁業協同組合・森林組合・地元住民等や関係機関と緊密な連携を図り、バイオマス資源の供給の仕組みや利活用の方法を協議しながら推進していくものである。</p>	<p>森林環境フォーラムの開催、環境パンフレットの作成・配布、炭焼き体験の実施及びペレットストーブの導入等の事業メニューが滞りなく実施された結果、バイオマス利活用に係る町民への理解醸成、事業推進体制の整備等がなされ、全ての個別成果指標及び目標が達成された。</p> <p>今後は、環境保全と併せたバイオマスの利活用や資源循環システムの構築等が総合的に実施されることにより、豊かな農村・水環境の維持や環境問題の解決、地域全体が参画できる体制整備及び地域振興等の実現が期待される。</p>			

都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
										事業実施主体		農政局	
新潟県	胎内市	胎内市全域	胎内市	1. バイオマスの利活用の推進 (8) バイオマスタウン構想支援 ・啓発パンフレット作成・配布12,000部 ・講演会開催 2回 ・有機資源循環システム確立に向けた協議会開催 14回 (構成員:学識経験者、耕種農家、畜産農家、食品事業者、農協、市民各層及び行政機関等)	H17 ~ H18	バイオマスタウン構想書の実現・実践状況		(H17年度) ・市内農家を含む8千世帯がバイオマス利活用の必要性を認知		本事業においては、目標であるバイオマスタウン構想(平成17年3月策定)に明記された目標達成に向け、「有機資源循環システム確立に向けた協議会の開催」、「バイオマス利活用技術の実用化に向けた講演会の開催」及び「市民及び民間事業者等に向けた啓発パンフレットの作成・配布」等の取組を実施し、「有機資源循環システム構想の策定」及び「市民及び民間事業者等に対するバイオマスへの理解醸成」等各個別成果指標は全て達成され、目標は達成された。 今後は、バイオマスタウン構想に明記された目標である「廃棄物系バイオマスの利活用率100%、未利用系バイオマスの利活用率50%」を達成できるよう、炭化・蒸煮を中心にメタン発酵を加えた変換技術の確立、家畜糞尿や生ゴミ等の収集運搬方法からバイオマスによる生産物(炭化肥料・メタンガス・液肥等)の活用や販売路の確立のために各種関係事業者との会合を積み重ねていき目標の達成を確実にしていく。	市民及び事業者等に対する普及啓発の各取組、有機資源循環システム構想の策定に向けた協議会の開催等の事業メニューが滞りなく実施され、全ての個別成果指標が達成された結果、バイオマスタウン構想の実現に不可欠な市民等への理解醸成及び有機資源循環システム構想の策定が行われ、目標は達成された。 また、今後は策定された同構想及びタウン構想に基づき、農畜産業由来及び生活関連廃棄物等のバイオマスを中心とした利活用率の向上に向け、胎内市におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。		
								(H17年度) ・バイオマスの利活用、資源の生産・収集・運搬システム構築に向けた課題等の抽出・整理					
								(H18年度) ・市民及び市内事業者の過半に対するバイオマス利活用事業推進の必要性に関する機運醸成					
								(H18年度) ・バイオマスの利活用推進上の課題解決に向けた提案					
								(H18年度) ・有機資源循環システム構想の策定					
都道府県	市町村名	地区名	事業実施主体名	事業内容	評価年度	目標	達成状況	個別成果指標	達成状況	総合評価			備考
石川県	能美市	能美市	JA能美	1. バイオマス利活用の推進 (3) バイオマスの種類に応じた利活用の促進 (ア) バイオマス利活用協議会等の開催 ・バイオマス利活用協議会等の開催 3回 (イ) 土づくり普及啓発推進 ・広域需給堆肥の散布実証 32ha	H17 ~ H18	バイオマス利活用のための数値目標の設定		(H17年度) ・バイオマス利活用地区計画の策定による利活用目標値の設定		本事業で設定した「バイオマス利活用推進協議会の開催」及び「広域需給堆肥の散布実証」の取組について計画的に実施し、これらに対する各個別成果指標について達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定」についても、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する取組を実施したことで、地域のバイオマスの総合的な利活用を推進するための基礎が構築され、目標は達成された。 今後は、能美市の「バイオマス利活用地区計画」の目標達成に向けて、能美市、地元農家等の関係機関と緊密な連携を図った上で、土づくり等の取組を推進していく。	本事業で設定した「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する個別成果指標をすべて達成しており、なおかつ、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定」についても、平成18年3月に能美市の「バイオマス利活用地区計画」を策定し、土づくり等の取組及びバイオマス利活用の推進体制を構築するなど、本事業は、適切かつ確実に実施されたと判断する。	バイオマス利活用推進協議会の開催及び広域需給たい肥の散布実証の事業メニューが滞りなく実施され、能美市の「バイオマス利活用地区計画」の策定等の各個別成果指標が達成され、目標である「バイオマス利活用のための数値目標の設定」についても、「バイオマスの種類に応じた利活用の促進」に関連する取組を実施したことで、能美市におけるバイオマス利活用の推進体制が構築されるなど、目標は達成されたと認められる。 また、今後も同計画に明記された目標である2010年までの達成に向け、土づくり等の取組を継続し、能美市、地元農家等の関係機関との連携を図ることとしており、これら利活用率の向上に向けて計画の着実な実施を図ることにより、能美市におけるバイオマス利活用の取組が一層進展することが期待される。	
								(H17年度) ・散布実証地区の農家20戸に対し堆肥による土づくりの必要性について普及啓発 堆肥散布量 87.8t					
								(H18年度) ・バイオマス利活用の推進体制を確立し、バイオマス利活用推進協議会参加の3団体、循環型社会システム化検討準備会参加の3団体がバイオマス利活用を共同推進					
								(H18年度) ・散布実証地区の農家20戸に対し堆肥による土づくりの必要性について普及啓発 堆肥散布量 146.2t					